（別紙4）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470200888		
法人名	有限会社　日本サポートリンク		
事業所名	色えんぴつ・四日市		
所在地	三重県四日市市赤堀1丁目6番2号		
自己評価作成日	平成27　年　7　月　28日	評価結果市町提出日	平成27年11月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470200888-00&PrefCd=24&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成27　年　8　月　25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設理念である「あなたらしく　いつまでも」を職員全員が理解し、大切にしています。ご本人の思いや選択を尊重しながら、“楽しい”“嬉しい”がたくさん聞こえてくるような一日を過ごせる様、支援を行っています。利用者同士で喜怒哀楽を共有し合える関係性を大切にしながら、刺激のある生活を送って頂いています。健康管理においては、長年診て頂いている主治医を始め協力医療機関の方々の協力を得ながら、細かな観察と相談報告を繰り返しています。薬剤師との定期勉強会も開催し、高齢の利用者への薬剤負担や必要性等も随時考慮しています。職員は積極的に研修や勉強会に参加し認知症への理解を深め、利用者が今の自分らしい生活を今後も続けていけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所の200メートル余り東には国道1号線が走り、周辺には工場や倉庫、近年新しく造られたアパートなどが混在している。従来からの住宅はわずかで、日中の車や人通りは少なくあまり生活感を感じさせない地域である。そんな中で今春新規に小規模多機能施設を立ち上げ、共に地域に呼び掛けてイベント等を計画し、『元気なお年寄り』をアピールしている。熱心な施設長や管理者のもと全職員が日々研鑽を重ね、利用者がその人らしく元気に暮らしていけるよう取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	暮らす場所が変わっても「あなたらしくいつまでも」の理念に添い、その方らしく生活が出来る様に支援している。地域の方との交流が持てる様に、隣接しているクレヨンへ行ったり、地域の催し物に参加する等している。	利用者の意向を優先し、理念である「あなたらしくいつまでも」を目標に日々全職員が取り組んでいる。利用者の意向を大切にするために、時には利用者に悟られないように陰で支援することもある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達との挨拶、地域での祭りや研修等への参加、また開けた施設作りに努め、近くの託児所の子供達を招いてイベントを行う事もある。利用者の散歩中お会いした方と会話を持つ等して、繋がりのある付き合いを心掛けている。	ホーム周辺が生活感が少ない地域性のため、住民との付き合いは困難であるが、毎日の散歩で出会った人々と挨拶を交わし、親しくなった方々から採れたての野菜をいただくこともある。事業所で夏祭りなどを計画し地域に呼び掛けている。	地域性により地元住民との交流には難しいこともあるが、隣接の施設と共にホームの存在を広くアピールする手立てを模索検討されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の体験実習、専門学校の実習を受け入れ、認知症への理解を深めて頂ける様努めている。運営推進会議を通し、地域の方と協力出来る体制作りに努めているがご家族や地域の方の不参加が多い現状もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度会議を開催している。施設の状況報告、ヒヤリハット報告、写真等から普段の利用者の様子を見て頂いたり、実際に施設内を見て頂く事もある。会議では施設から参加者に質問をする等して積極的にご意見を頂ける様にしている。	2か月毎に開催し、その時々の時事的課題やホームの近況報告等を中心に話し合いがなされている。地域の関係者に参加の呼びかけをしているがなかなか変化はみられない難しさがある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、催し物に行政や地域の方の参加を呼び掛け、施設の状況を知って頂けるようにしている。毎月介護相談員の受け入れを行っており、介護相談員・利用者・職員との協力関係を築ける様努めている。	運営推進会議には毎回出席してもらっていて、ホームの実情はよく知ってもらっている。市に対して市内の同業の事業所を集めて集団指導をお願いするなど積極的に働きかけを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員がしっかりと理解し、取り組んでいる。慣れ合いの関係から、ふとした言葉が虐待に繋がる事を理解し、利用者を抑制する様な言葉が無い支援を行う様努めている。	身体拘束はもちろんのこと、不用意な言葉によって利用者を否定したり抑制しないように心がけている。しかし、時には利用者同士で互いに傷つけ合うこともあるので、職員が間に入って仲をとりなし解決するよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならない事で、会議や研修において常に話し合い、職員間で注意喚起し合っている。現在まで虐待等の行為はありませんが、見逃す事が無い様に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方には出来る限り最大限の情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、同時に施設内見学も行っている。利用者様及びご家族にとって安心して利用出来る施設だと納得して頂いた上での契約としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やイベント時にご家族と話す機会を持つ様にしたり、面会時に記入して頂くノートに意見や要望を記入して頂く別紙を挟み、思いを出しやすい環境作りを心掛けている。又運営推進会議も意見をお聞きする場に利用している。	面会時に個別の面会ノートを手渡しで、気付いたこと等を書いてもらっている。また無記名で書けるような別紙もはさんで気兼ねなく意見や要望が言えるような計らいをしている。面会ノートは利用者の入居時からずっと保存し、大切な物となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議において意見・提案を話し合っている。週報や申し送りノートも活用し、要望等は直接社長にも届く様に出来ている。必要時にはミニカンファレンスを行い、提案があれば出来る限り早めに反映出来る様努めている。	日常のケアの中から出てきた様々な疑問・課題について、申し送りノートなどをもとに定例会議で話し合っている。常に利用者にとって最善の方法を考え、全職員が共有し支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な自己評価・管理者の評価を行い能力に見合った報酬を定めたり見直したりしている。外部研修やOJT等は常に掲示してあり、誰でも参加出来る様にして、各職員が向上心を持って仕事に取り組める様に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合った研修を受ける機会等を設けている。研修後は報告書提出後、その月の会議の場でも報告し、全員で共有出来る様に努めている。また、研修報告書を活用しOJTを行う事で改めて全員で考える機会を持つ様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や施設見学等を行い、他事業所との交流を持ち、ネットワーク作りを行いサービス向上に繋げる事が出来る様に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から本人とご家族から困っている事や不安な事、気になる事、要望を聞き取りさせて頂いている。隣接小規模を利用後入所される場合は細やかな情報提供に協力して頂き、安心が確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から困っている事や不安な事、気になる事や要望等について入居申し込みの段階で聞き取りを行っている。その要望等に寄り添い、出来る限り応えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入する段階で、本人の状態や生活環境等の情報収集を行い、必要な支援の話し合いを行う。必要時には他のサービス利用も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、される側という一方的な立場にならない様に日々コミュニケーションを図っている。それぞれの利用者に合った役割を見つけながら支援を行っている。様々な個性を持つ利用者と職員が暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と本人の繋がりが途切れない様にこれまでのご家族の関係性を理解し、協力して頂ける事はお願いしている。細めな報告や相談を行い、共に支えているという意識を持って頂けるようにしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や本人から特別な要望がない限り、面会や電話の受け入れ、外出支援等をいつでも行っている。	元々利用者の中に地元出身者が居ないため、ここに入居してからの馴染みの店などで買い物をしたり、外食をするという楽しみを大切に続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見守り、個々の時間も尊重しながら、皆で関わり合いも出来るようにレクやイベント等の支援を行っている。その際、利用者が孤立する事がない様に職員が必要時に介入して交流を持てる様に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば受け付ける体制を取っている。施設でターミナルケアを行ったご家族がその方の命日に来所されお話をする様な事もあった。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を言葉で伝えられる方においてはその内容を把握し沿える様に努めている。言葉で伝える事が困難な方においては表情や動作から察したりご家族からの聞き取りや生活歴等からも出来る限り感じ取りその方の思いを検討し、沿える様に努めている。	限られたホームでの生活の中でも利用者の思いや意向を汲み取り、その人らしい生活が送れるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式を使い、情報提供して頂いたものを基に日常会話やご家族、知人からの情報も取り入れその方の馴染み等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で個々の一日の過ごし方を大切にしながら、言葉や表情を観察し小さな変化も記録・申し送りを行っている。定例会議等でも話し合い、職員間で情報を共有し、その方の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向や情報を踏まえて毎月の定例会議でカンファレンス、モニタリングを行っている。また協力医療機関からの意見も取り入れ、介護計画に反映している。	毎月の定例会議で行ったカンファレンスをもとに3ヶ月毎にケアプランの見直しをしているが、必要があれば随時変更できるように取り計らっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きや状況を個別に記録し、申し送り等でより詳細に伝えカンファレンスに繋げている。必要時には24時間シートや体位交換表等を利用し職員間で情報共有しやすいように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医への受診対応、法事やご家族との旅行への参加支援を行っている。訪問歯科や訪問マッサージを受け入れ必要なニーズに応えるよう努めている。他にも本人、ご家族からのニーズがあれば出来る限り受け付ける体制を取っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園との交流や祭り、ボランティアの慰問を受け入れる等を行っている。隣接小規模の利用者と会話するのを日々の楽しみにしている方も居る。地域の方とまじり合える環境を作り、楽しみが増えればと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長期に渡り近くのかかりつけ医の協力を得ている。様々な問題に細やかな対応をして頂き、必要時には専門医への紹介状等の対応も得る事が出来、よりスムーズな受診に繋がっている。	利用者全員が協力医のもとで健康管理をしている。協力医に勤めている看護師を当事業所が雇用して健康観察を行い、異常があれば直ぐに対応できるようなシステムが確立されていて、利用者・家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、協力医院の看護師が勤務しており、状態を診て処置等をして頂いている。問題点や気になる事があれば主治医に伝達され受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	随時、必要な情報伝達ができるように細やかな面会・連絡等を行っている。安定した状態で早期退院できるように主治医との意見交換ができる体制を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の段階で簡単な意向の聞きとりをしている。入所後の重症化・終末期においては状態の変化に合わせて、その都度、ご家族・主治医との話し合いを持ち、臨機応変に適切な支援を心がけている。	看取りについて事業所の方針や職員の心構えはできている。しかし、重度化して寝たきりになった利用者が増えてきた場合、グループホームの本来の目的からかけ離れていくのではないかという疑問もある。今のところほとんどの利用者がホームでの看取りを望んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急・急変時のマニュアルを理解し、冷静かつ的確な判断や対応ができるよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防点検等に併せ年6回の避難訓練を行っている。防災用品や非常食等も備蓄し、避難場所・方法の確認を行っている。定期的に定例会議や運営推進会議でも話し合いを行っている。	これまで年2回の訓練であったが、火災・地震・夜間想定の避難訓練を2回づつ行った。その都度出てきた課題について会議で取り上げて検討している。備蓄の管理も徹底している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、プライバシー確保に努めている。名前は入所時に本人やご家族に馴染みのある呼び方を確認し、対応している。接遇や勤務態度等職員同士で注意し合いながら言葉かけに配慮を心掛けている。	利用者の尊厳を守るよう常に話し合っているが、時に不用意な言葉が出てしまうこともあり、職員がお互いに注意しあい、意識していく必要性を感じている。	人格を尊重した言葉がけや対応が常に自然にできるように、全職員が接遇の研修や話し合いを重ねてさらに確固たるものになるよう期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を理解し、自己決定に繋がる様に支援している。入浴の有無・献立の内容等、生活の色々な場面で出来る限り個々の希望を取り入れる様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で大まかな流れは決まっているが個々のペースや希望に沿ってその都度時間を工夫して、生活出来る様にしている。職員のペースで無理強いにならない声掛けを心掛けている。意思疎通が難しい方にも配慮を忘れない様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容や洋服選びも個々の好みで対応している。TPOに合わせてご自身で着替える方もいる。訪問理容の際にはご自分で希望を伝えカットを調整される方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや意見を聞いたり、季節毎の旬の食材を献立に取り入れている。誕生日にはその方の好きなメニューでお祝いしたり、年に数回外食も行っている。利用者の個々の能力に合った下準備や盛り付け、片付け等を一緒に行っている。	献立から買い物・調理まで、職員が利用者の意見を取り入れつつ行っている。周辺の飲食店で外食をすることもあるが、主にドーナツや団子などおやつを楽しみに出掛けることが多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ、食事形態や量に配慮し、栄養バランスに気を付けている。定期的な水分補給を心掛け、同時にいつでも好きな時に飲める様、目に付くような所に湯のみとお茶を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを支援している。自身で磨けない方には口腔ケアウエッティ等を使用し清潔保持に努めている。自身で磨かれる方にも口腔内の確認をさせて頂く様にしている。訪問歯科医に定期的なチェック・アドバイスをして頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを読み取り、声掛けや誘導を行っている。排泄前の表情や行動を観察、把握し介助を行う事で不要なオムツ等の使用を控え、快適に過ごして頂けるよう支援している。	自立している利用者が半数以上いるが、常に排泄チェック表をもとに目配せでトイレ誘導している。汚染した下着をタンスに隠されることもしばしばあるが、本人に気付かれないよう処理して元通りに戻すなどの心配りをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活歴や今までの排泄記録等を活用し個々にあった支援をしている。バナナジュース、ヤクルト等を取り入れ自然な排泄に向け努め、散歩や体操などで便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の時間設定はあるが、個々の希望を取り入れ入浴出来る様支援している。季節を感じて頂ける様、菖蒲湯等にする事もある。受診や行事があっても入浴が出来る様に時間を調整して入浴して頂ける様支援している。	週に2回から希望があれば毎日の入浴も可能である。重度の利用者もできるだけ湯船に浸かれるよう二人体制で支援することもある。入浴は利用者の楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室、フロアーのソファー、玄関、庭のベンチ等それぞれが気持ち良く休めるような場所や状況で個々の時間を過ごして頂いている。居室やフロアーの温度、湿度に常時気を配り調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬間違いが無い様、三段階のチェックをし、服薬終えるまで見守っている。服薬後にはチェック表に記入している。症状の変化等定期的に話し合い、主治医、薬剤師に報告相談している。定期的に薬剤師との勉強会を開催し薬についての知識を深める様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で個々の興味や出来る事、したい事等を踏まえ、役割として行える様支援している。買い物や外食、ドライブ等を行い気分転換を図れる様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の買い物の希望や季節ごとの外出支援は積極的に行っている。利用者の希望を元におやつを食べに出掛けたり、季節に触れる外出をしている。職員が付き添えない場合等はご家族に伝え協力をお願いする事もある。	季節やお天気をみながら毎日の散歩を続けている。利用者の要望によりドライブを兼ねて買い物や外食に出掛けている。家族にも協力してもらい、利用者の閉塞感がないよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の同意を得て、ご本人にある一定の金額のお金を所持して頂いている方もいる。又買い物の希望があればご家族からの預かり金を一時本人にお渡しして、支払い等で本人がお金に触れる機会を持つ様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば電話を繋いだり、職員の声掛け等により電話をかけご家族とやりとりが出来る様支援している。又ご家族の同意があれば本人管理の元、いつでも携帯電話を使用出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる様、季節感のある花や利用者の作品を展示している。又音や光、温度や湿度等に配慮し、快適に過ごして頂ける様努めている。	天窓から優しい光が降りそそぐ居心地のいいリビングには、利用者が職員の手を借りて詠んだ俳句や折り紙の飾りが展示され、季節感や利用者のパワーを感じさせる。廊下にサーキュレーターを設置して自然の風が流れているような効果を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内外にソファやベンチを置いて、利用者が自由に過ごせる様支援している。夕食後から1～2時間夕涼みをされる方、居室でTVやCDを楽しまれる方、読書される方、それぞれ思い思いに過ごして頂ける様支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人・ご家族と相談し、出来る限り以前から使用している馴染みの物を持ってきて頂ける様お話ししている。居室にはご家族やペットの写真等を飾り、ご本人が安心して居心地良く過ごせる様配慮している。	個々の利用者の特色を出せるように、家から使い慣れた家具等を持ちこんでもらっている。利用者は好きなようにリビングと居室を往来している。また、入居以来撮り溜めた写真をもとに個々のアルバムを作成し、利用者や家族から喜ばれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活用品の置き場所を一定の位置にし、引き出しには何が入っているかを書いておく事で出来るだけ自立した生活が送れる様工夫している。生活に不必要な危険な物は片付け、楽しみになる部分は残し安全に過ごせる環境作りに努めている。		